

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21,23	利用者同士が会話される場面が少なく、親睦を深めていただきたい。利用者同士の関わりの中でのストレスや心の中の表現しづらい思いや口に出せない思いをしっかりと理解できていないのではないか。	利用者同士及び職員と毎日交流する機会を作る	職員は一日一回、利用者と一緒にテーブルを囲みゆっくり過ごす時間を作る。利用者同士の会話が生まれるようなきっかけづくりを行う。おやつ作りをはじめ、家事やレクリエーションなど全体で行う活動の前には、挨拶やお礼を述べるなど会話の導入につながる声掛けを行う。全体の会話に拘らず、利用者同士の相性に配慮した個別の会話しやすいようリビングや台所等パブリックスペースを活用し会話しやすい環境を提案する。利用者の心の深い部分での思いや願いを感じ取り、日々の利用者の変化や状態を職員間で共有し、一人一人に関わる時間を意識的に持つ。	6ヶ月
2	27,52	利用者の高齢化、重度化に伴い、筋力や体力の低下が進んできている。コロナ禍で室内で過ごす時間も増え、活動をすることでメリハリをつける。	週に3回以上、「ラジオ体操」や「いいね金沢体操」を行う。	午後から座って過ごす時間が多く体を動かすことが少ない。体操で体を動かし、気分転換を図る。また個別のリハビリテーションや集団でのレクリエーションの機会を持ち、楽しめる時間を作る。	12ヶ月
3	44	利用者の高齢化に伴い、食事摂取量の低下が一部見られる。ご自身で召し上がる喜び、作る楽しさを実感して頂くとともに、美味しく召し上がって頂ける工夫が必要。	・月一回、いつもと違う食事を提供する。 ・月二回、おやつを手作りする。	ビュッフェ形式またはテイクアウト食を毎月一回実施(状況に応じて外食)し、選ぶ楽しさや変化にとんだ食事形態を提案することで新鮮な気持ちを感じていただき食欲の増進を図る。おやつ作りは毎月二回実施する。食事作りはこれまでどおり、食材の買い物から調理、盛り付けまで利用者に同伴していただき、食材選びやおやつのご要望などお聞きし、想いをくみ取った食事提供を行う。旬の食材を使用する等、季節感を感じていただき食欲が増進するよう配慮する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。